

“小さな群れよ、恐れるな。あなたの父はよろこんで神の国をくださる”（ルカ12-23）

小さな群れ

カトリック美唄教会

2022年2月 No.297

2022年1月30日発行

主任司祭 ナルチゾ神父

2月は、主の奉獻、日本26聖人殉教者の祝日、ユスト高山右近殉教者、そして、典礼的には任意の日ですが、全世界からキリスト者だけではなく、心身の“いやし”を求めて巡礼する「ルルドの聖母」と



過ごしていきます。11日は「世界病者の日」で、この日に向けて教皇は、[毎年メッセージ](#)を送っておられます。

身をもって信仰をあかしした殉教者たちに、日本の教会のために取り次ぎを求めて祈りましょう。

22日には、聖ペトロ使徒座の祝日を祝います。この日、キリスト者たちはバチカンの聖ペトロの墓とオスチア街道にある聖パウロの墓のそばで二人の聖人を偲んで祈っていました。4世紀になると6月29日に両使徒を祝う祭日となったため、22日は聖ペトロが教会の礎として最高の責任者として建てられた教会の一致のしるしとして祝うようになりました。

「あなたはペトロ（岩）である」と言われたペトロ、典礼はペトロの信仰こそは教会がその上にたつ岩であることを浮き彫りにしています。ペトロの後継者、教皇フランシスコのために祈るとともに、教皇と心をあわせて一致の礎をかためるようにいたしましょう。

3月に入るとすぐ四旬節に入ります。このような時期を意識しながら、この月を過ごしてまいりましょう。

2022年2月 主日ミサ・平日のミサ 予定

美唄教会 小さな群れ
2022年 2月 No.297
2022年 1月30日発行

2月 召命を求める祈り・病人のための祈り

日	曜	ミサ		各種勉強会	会議・その他事項
		主日・祭日	時間		
4	金		午前 10:30	ミサ後聖書に親しむ	
6	日	年間第5主日	午前 11:00		
11	金	世界病者の日	午前 10:30	ミサ後聖書に親しむ	
13	日	年間第6主日	午前 11:00		ミサ後運営委員会
18	金		午前 10:30	ミサ後聖書に親しむ	
20	日	年間第7主日	午前 11:00		
25	金		午前 10:30	ミサ後聖書に親しむ	
27	日	年間第8主日	午前 11:00		

《 平日のミサ 》 金曜日のみ 午前 10:30 4・11・18・25日です
《 聖書を親しむ 》 平日のミサ後、旧約聖書に親しんでみませんか。

霊名の祝日 (敬省略)	清掃当番	花 当番
2月21日 ドローティア 有ノ木 幸	第2週 山本、菅野 第4週 大城	船野

【お知らせ】

- ◎1月25日クリスマス献金は46000円でした。
司教館を通して日本管区に送付いたしました。
- ◎2月20日(日)～27日(日)までに昨年度のしゅろの葉をお持ちください。
- ◎3月31日決算が近くなって参りましたので教会維持費など遅れないように、お納め下さい。

北見教会の火災（1993年11月）の体験

①1993年4月、東京カトリック神学院養成担当の6年の任期を終えて教区に戻り、北見教会に赴任。北見地区は長年フランシスコ会が担当していたが、その1年前から教区司祭が1名派遣され、太田哲也師が行っていた。1992年度の1年間は、川上 剛地区長、パウロ・ボウマン師と3人体制だった。

1993年春、川上師（当時50歳）がフィリピンに研修に行くことになって、その後任にわたしが指名された。それで、この年から教区司祭2名とフランシスコ会士1名の体制となった。パウロ師（当時66歳）が遠軽と紋別を担当、太田師（当時39歳）が網走と美幌の担当、わたし（当時44歳）が北見と「光の苑」の担当。パウロ師は遠軽に住んでいたが、太田師とわたしは、北見の司祭館（元修道院）で共同生活。

②同年11月7日（日）北見教会の黙想会で講話を担当。テーマは「神のみわざとしわざ」。一神さまが自分にとって都合の良いことをなさる場合を「みわざ」、逆に都合の悪いこと、つらいことをなさる場合を「しわざ」と表現。題材は創世記のアブラハム、ヨセフの物語からとった。

「焼き尽くす献げ物の小羊はきっと神が備えてくださる。」（創22.8）

「神は人が行った悪を善に変え、多くの民の命を救うために、このようにしてくださった。」（同50.20）など。

③その黙想会から1週間後の11月14日（日）の未明、火災報知機のけたたましい音で目が覚める。何かの間違いで作動したのだろうと思って、スイッチを切ろうとしたが…… 太田師の「煙が出てるー」の叫び。本当の火事だった！！ 119番に通報（0:31）。あとは消防に任せるしかなかった。

香部屋が火元と見られる。普段は火の気のない所なので、漏電か？ 放火か？ 原因は特定できず。

14日の主日ミサはお隣の幼稚園でした。普段よりもたくさんの信者たちが集まった。ミサ後、みんなで後片づけ。

ショック！ 北見の信徒の皆さんに申し訳ないことをした。焼け跡を見るたびに心が痛んだ。だれの「しわざ」なんだ？ 1週間前に黙想会で自分が語ったテーマを自分に言い聞かせることになった。

<焼け跡の状況> 実際に焼けたのは小聖堂と香部屋、信徒会館の一部などで、それほど広くはなかったが、熱風と煙のため天井も壁板も、聖堂内に並べられていた木製の椅子も、焦げたり煤けたりで使用不能となる。香部屋に置いてあったカリスなど金属類は磨いて使えるが、祭服類や儀式書などはほとんど焼失。屋根裏の物置にしまっていたクリスマスの馬小屋セット、布団や毛布などは焼失。聖堂の本棚にあった聖書や聖歌集などは、煤けてひどい臭いが染みつく。

12月中旬に、焼け跡がひどく危険な箇所である香部屋、小聖堂、信徒会館ホールなどを解体、撤去し、切り離れた部分を、風雪をしのげる程度にふさぐ応急的な工事をした。

<再建計画、工事について> 再建計画委員会を設置。

業者の大まかな見積では、聖堂を修復するだけでも3000万円以上はかかる、しかも元どおりにはならないし、あの焼け跡独特の臭いがとれる保証はないと言われた。

前の建築から34年経っていた。冬は寒い聖堂だったと皆さんは言っていた。結論として、修繕ではなく全部建て直すことにした。翌年(1994年)の春から再建工事を始めることにした。

工事は順調に進められ、9月に新聖堂と信徒会館が完成し、10月23日(日)地主司教司式で献堂式のミサがささげられた。

<費用の問題>

危険な焼け跡の解体工事に	200万円	<u>火災保険から</u>	<u>3,800万円</u> ☆
本体工事に	6,500万円	<u>見舞金</u>	<u>1,000万円</u> ☆
設計料	300万円	自己資金	2,700万円
備品などで	500万円		
合 計	7,500万円	合 計	7,500万円

☆火災保険と見舞金は、火災だったから生じた資金で、お蔭さまで1円も借金せずに、新しい教会を建てられた！！

♪神の計らいは限りなく、生涯わたしはその中に生きる！

(典52=詩編90、典53=詩編139)

<以上。2021年11月 今田玄五しんぷ 記>